



松原市セーフコミュニティ
自殺予防対策委員会
活動報告

— 再認証現地審査 —

自殺予防対策委員会 委員長 津村 英子
所属：松原市民生委員児童委員協議会 会長

対策委員会設置の背景①

背景1：15歳～69歳までの年齢層において
上位5位以内の死因である

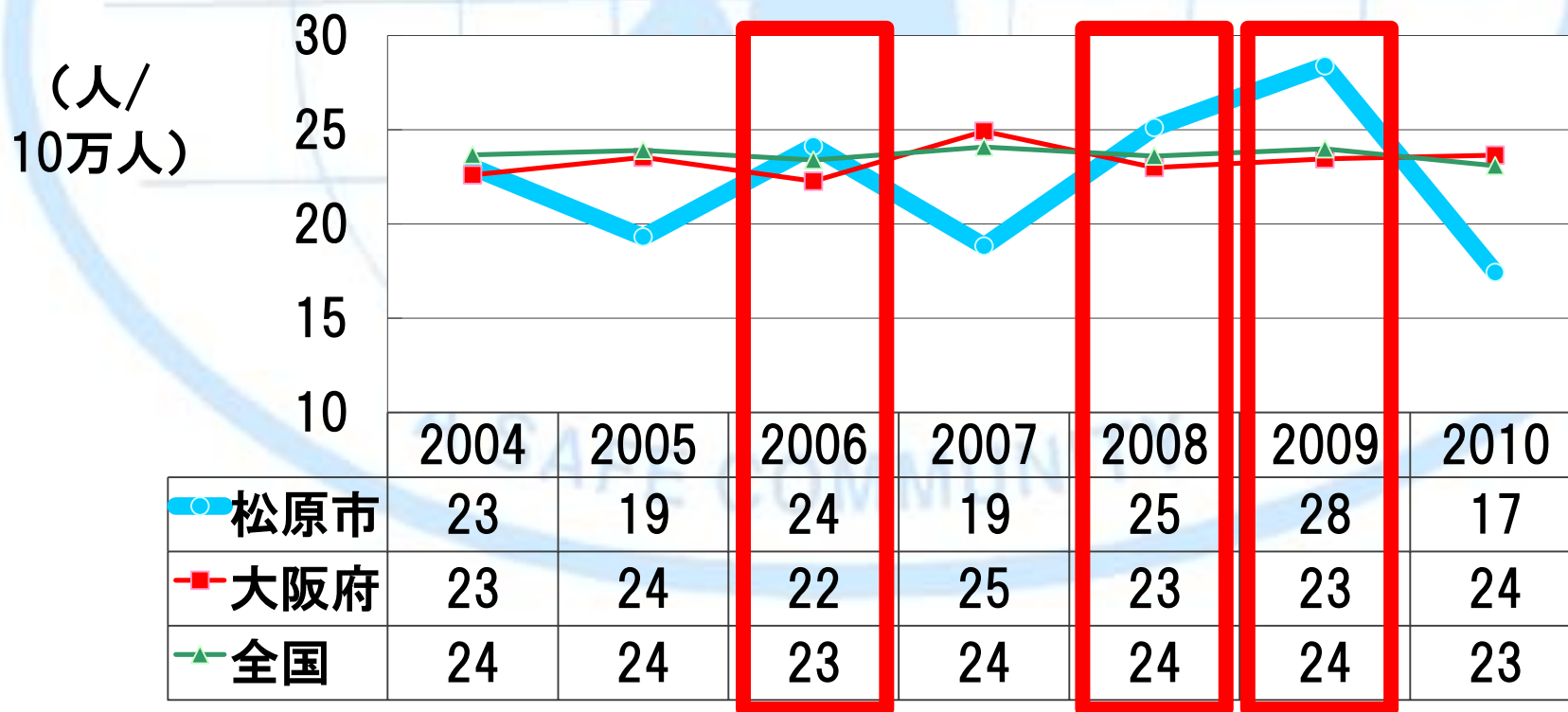
(年齢層別死因順位 (2007年～2011年) 出典：人口動態統計)

	1位	2位	3位	4位	5位
0歳	先天奇形等	周産期の病態	消化器系疾患、乳幼児突然死症候群、不慮の事故		
1～4歳	腸管感染症、内分泌及び代謝疾患、神経系疾患、不慮の事故、その他の外因				
5～9歳	悪性新生物、不慮の事故	-			-
10～14歳	先天奇形等	感染症等、悪性新生物、その他の外因			-
15～19歳	呼吸器系疾患、不慮の事故	自殺	-		
20～24歳	自殺	心疾患、不慮の事故、他殺			-
25～29歳	自殺	不慮の事故	脳血管疾患	悪性新生物、呼吸器系疾患	
30～34歳	自殺	心疾患、脳血管疾患、その他			不慮の事故、他
35～39歳	自殺	悪性新生物	不慮の事故	心疾患	脳血管疾患、他
40～44歳	自殺	脳血管疾患	悪性新生物、心疾患		不慮の事故
45～49歳	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	自殺	不慮の事故
50～54歳	悪性新生物	心疾患	自殺	脳血管疾患、不慮の事故	
55～59歳	悪性新生物	心疾患	自殺	脳血管疾患	肝疾患
60～64歳	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肝疾患	自殺
65～69歳	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	自殺	肺炎
70～74歳	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	呼吸器系疾患
75～79歳	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	不慮の事故
80～84歳	悪性新生物	心疾患	肺炎	脳血管疾患	呼吸器系疾患
85～89歳	心疾患	悪性新生物	肺炎	脳血管疾患	呼吸器系疾患
90歳以上	心疾患	肺炎	悪性新生物	脳血管疾患	老衰

対策委員会設置の背景②

背景2：2006、2008、2009年は
国や府を上回る割合

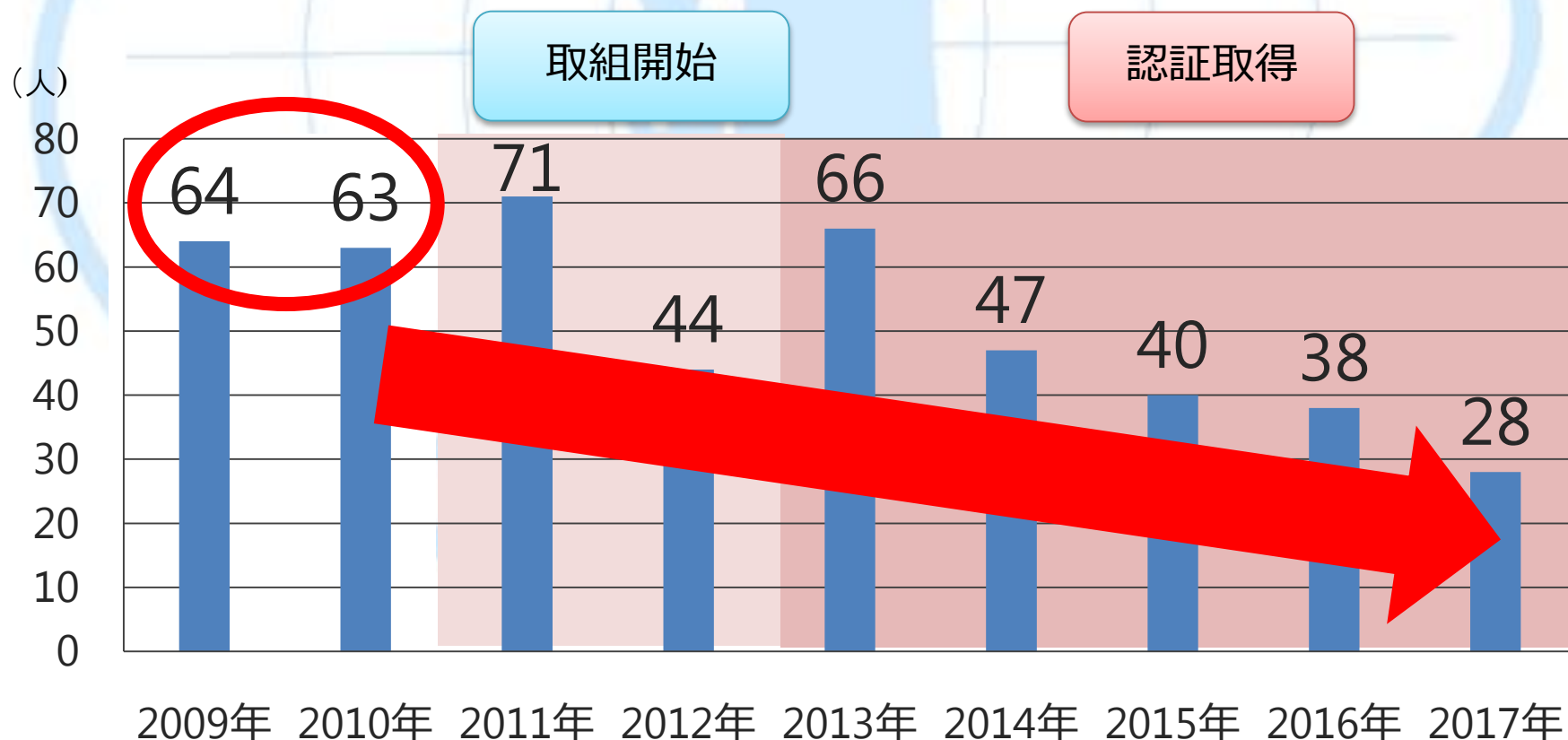
(10万人あたりの自殺者数 出典：人口動態統計)



対策委員会設置の背景③

背景3：自損行為により年間**60人以上**が救急搬送されている

(図表 3 : ③自損行為による救急搬送人員の推移 出典：救急搬送データ)

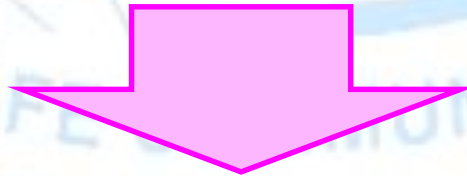


自殺予防対策の必要性

15歳～69歳までの年齢層において
上位5位以内の死因である

10万人あたりでは約20人自殺で亡くなっている
(毎年約30人)

自損行為により年間60人以上が救急搬送されている



自殺予防対策委員会の設置

自殺予防対策委員会の構成



《公益活動団体》
松原商工会議所
こころネット



《住民組織》

松原市障害者施策推進協議会
松原市民生委員児童委員協議会
松原市人権啓発推進協議会



《NPO法人》

介護支援の会 松原ファミリー
子育て支援ぽけっと
やんちゃまファミリーwith

《公的機関》

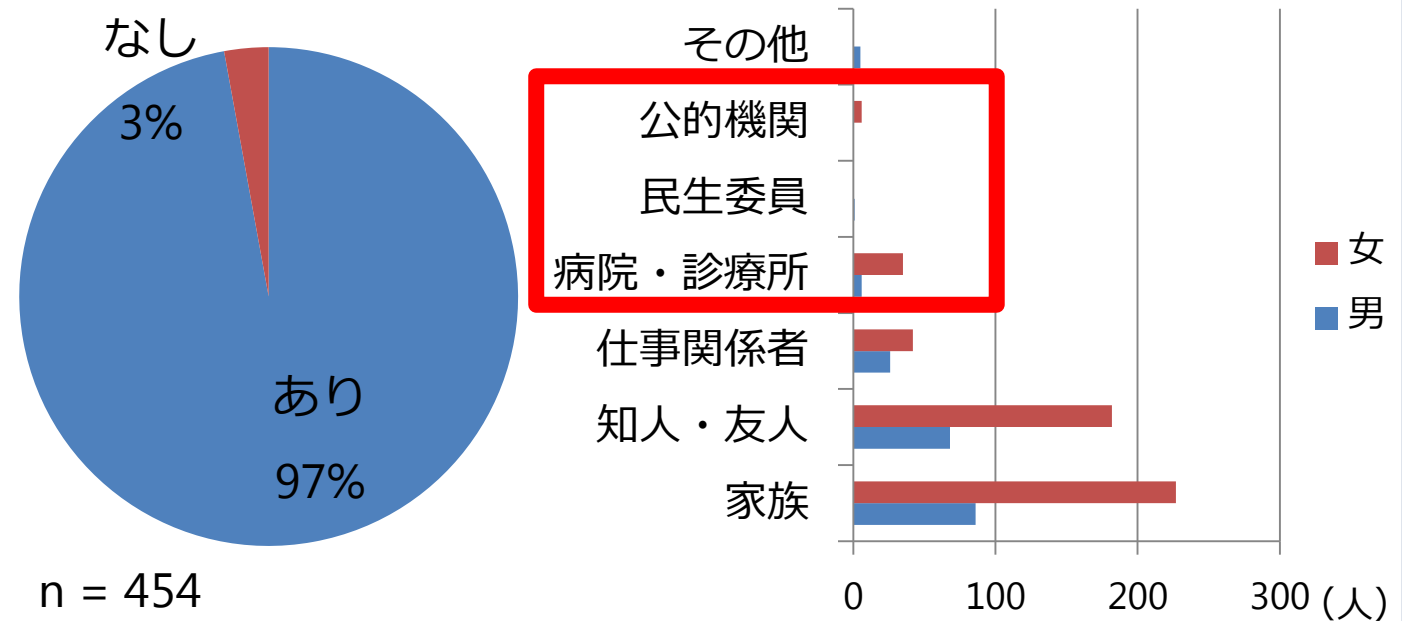
松原市地域包括支援センター徳洲会
松原市地域包括支援センター社会福祉協議会
大阪府藤井寺保健所
松原市（障害福祉課 地域保健課 産業振興課 人権交流室）

委員構成
20名

自殺に関する状況①

相談先

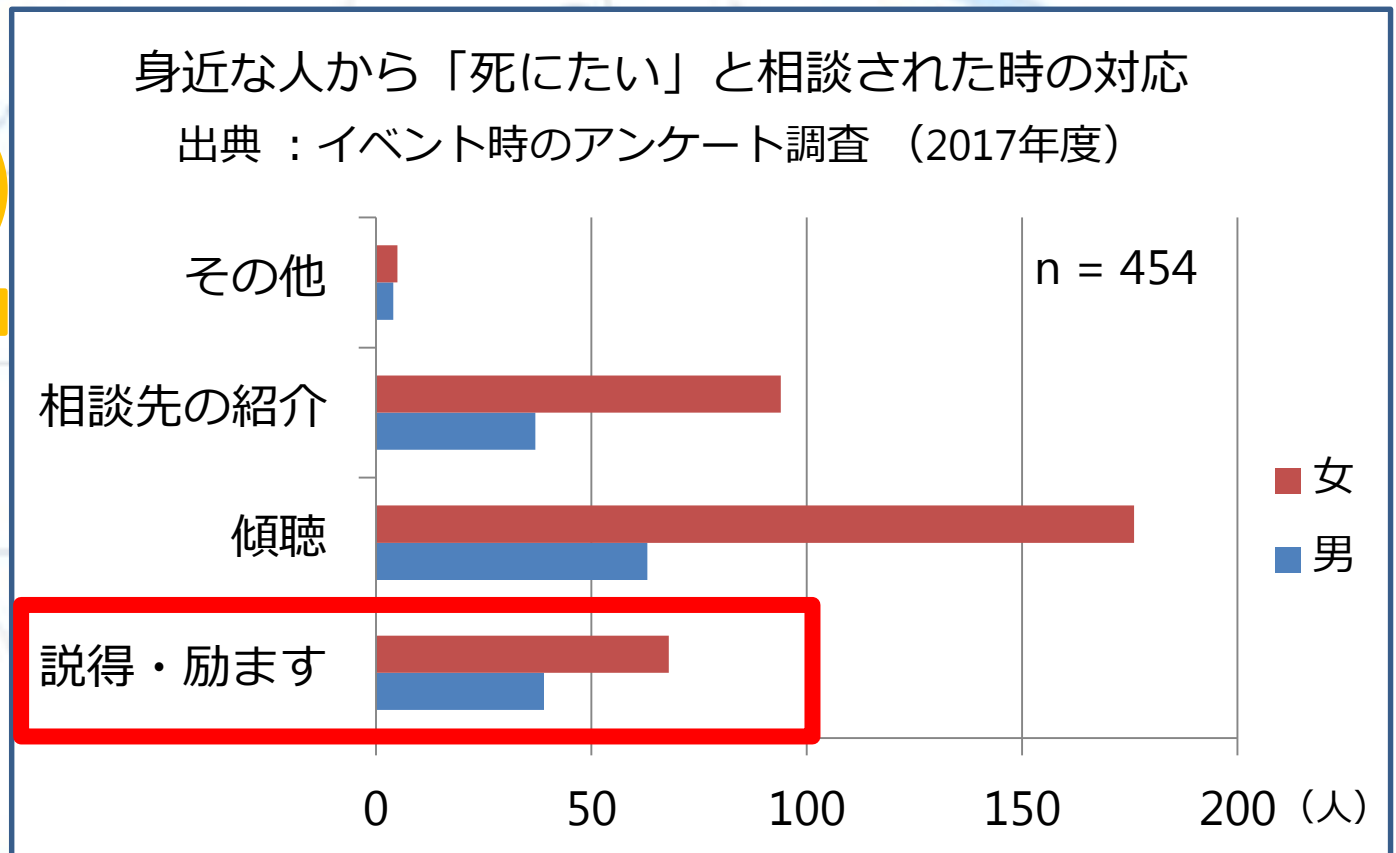
悩んだ際の相談先有無別割合 「あり」と答えた人の相談先
出典：イベント時のアンケート（2017年度）（複数回答）



相談先があっても市役所や保健所などの公的機関及び医療機関へ相談する割合が低い

自殺に関する状況②

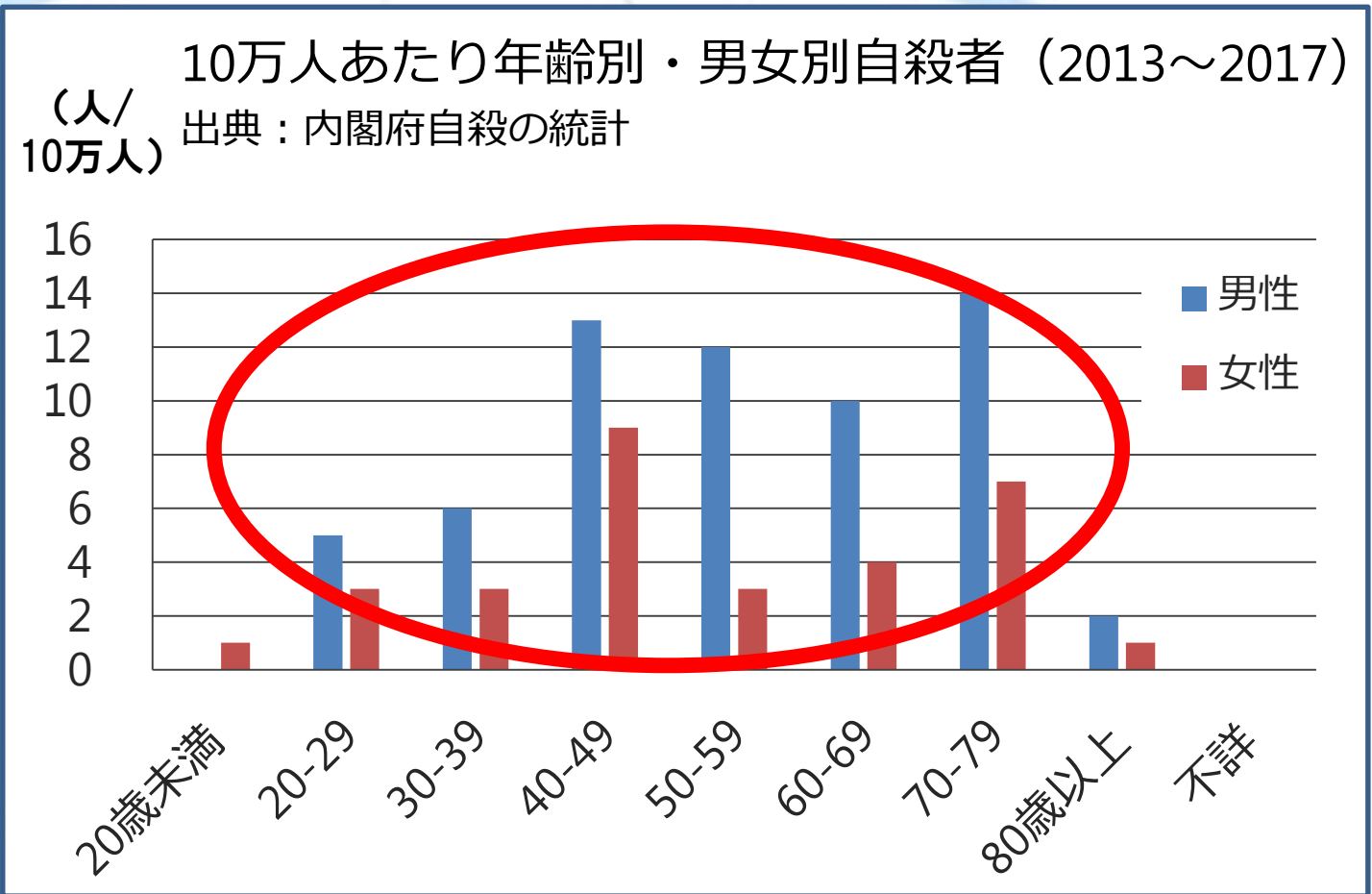
相談対応



家族や知人、友人に相談する割合が高い
**相談された際に知識がないと
逆に自殺に追い込む対応をしてしまう可能性がある**

自殺に関する状況③

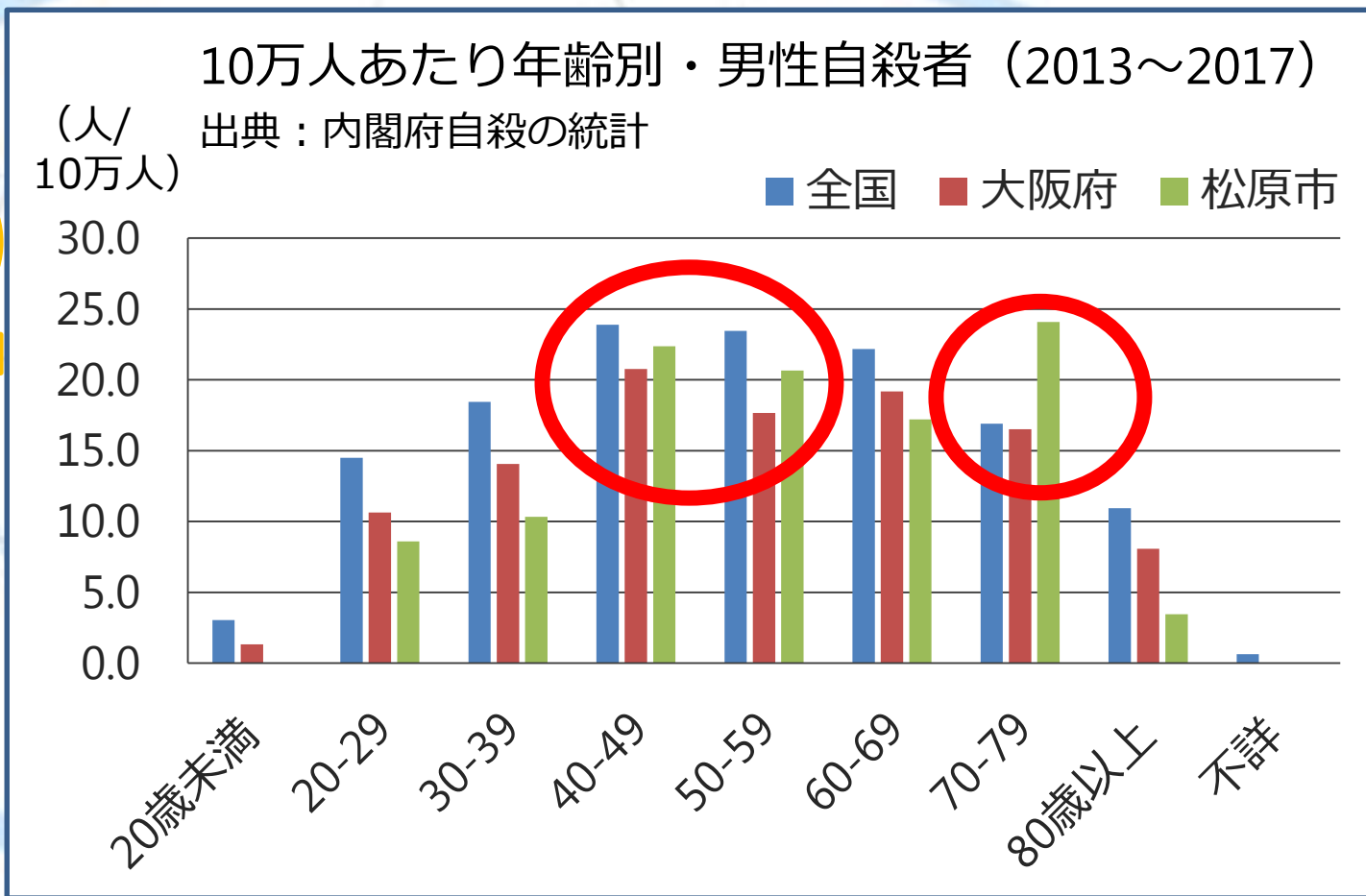
性別



女性に比べ**男性**の自殺が多い

自殺に関する状況④

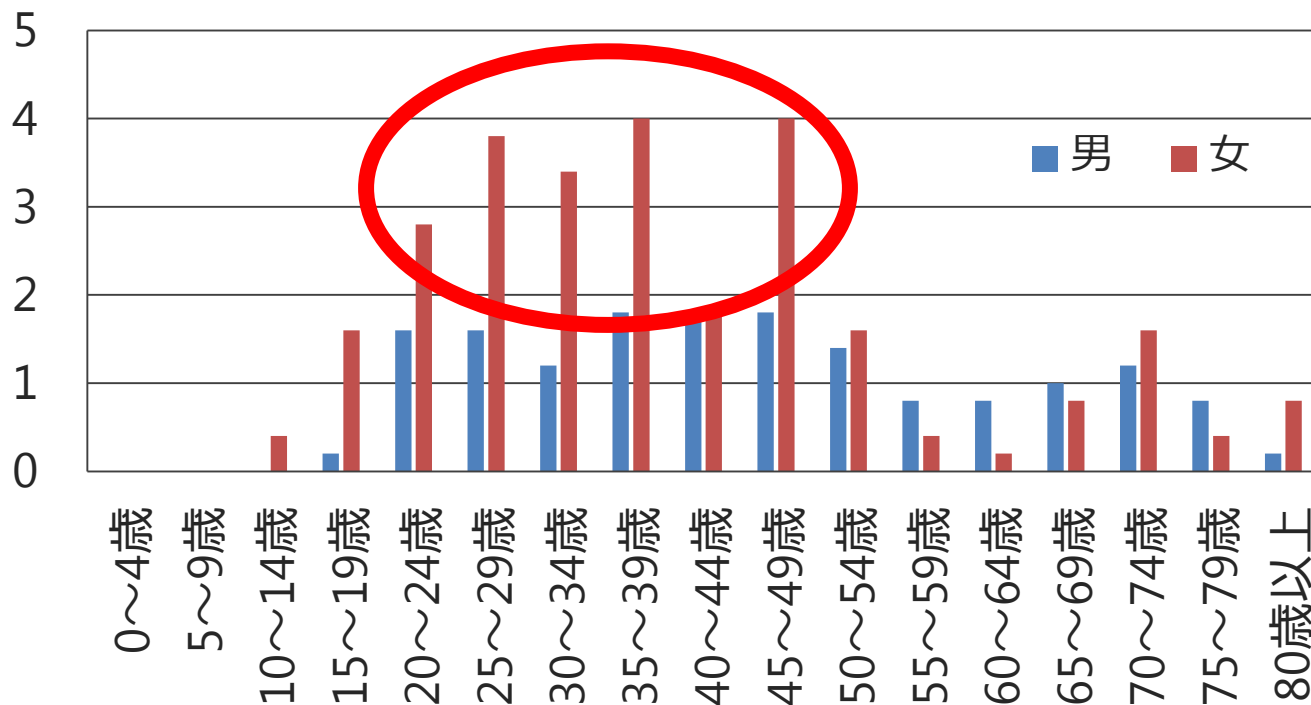
年齢



40代、50代においては府より、
70代においては国・府に比べ自殺者の割合が大きい

自殺に関する状況⑤

性別年齢階層別自損行為救急搬送人員数割合
(人) (2013~2017年度 平均) 出典：救急搬送データ

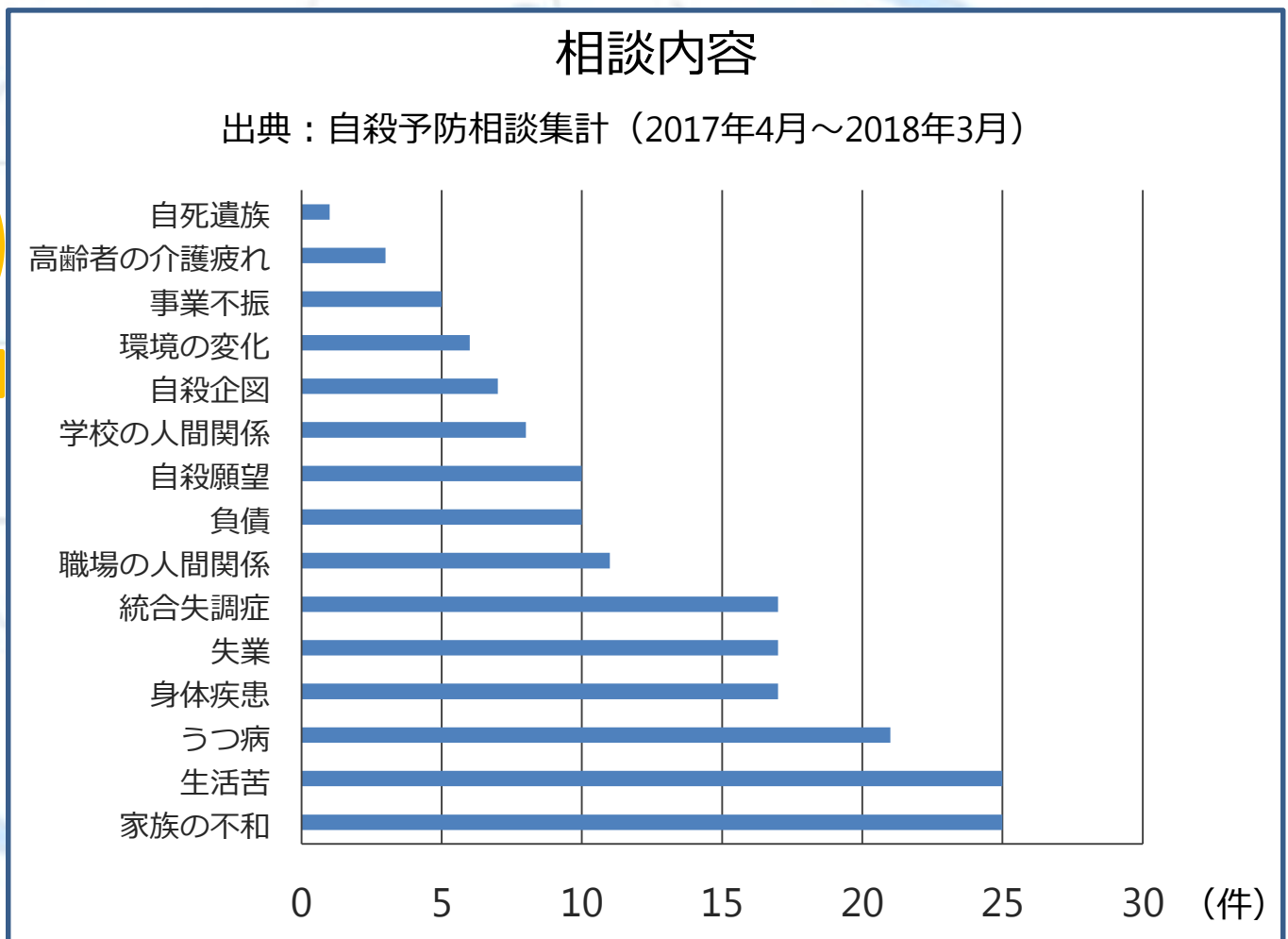


自損行為

- ◆性別だと、**女性**の方が多い。
- ◆年齢別だと、**20代~40代**が多い。

自殺に関する状況⑥

自殺の
ハイリスク



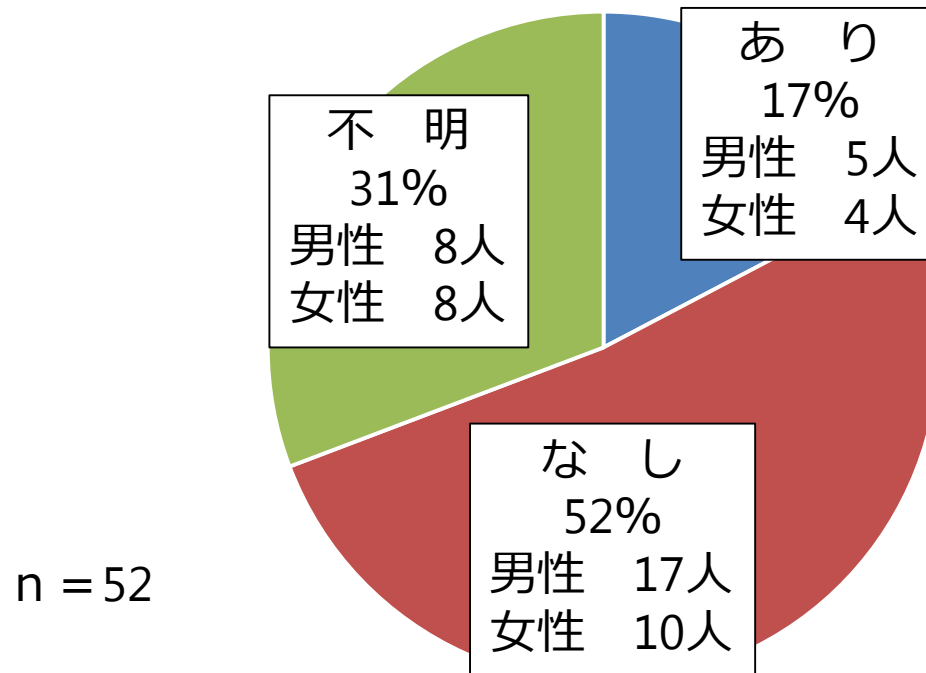
多種多様な相談内容がある
統合失調症・うつ病をあわせると全体の4分の1である

自殺に関する状況⑦

自殺の
ハイリスク

相談者の自殺未遂歴の有無

出典：自殺予防相談集計（2017年4月～2018年3月）



自殺未遂歴がある人は約2割いる

課題の整理

- 1 公的機関及び医療機関へ相談する割合が低い
- 2 家族や知人、友人に相談する割合が高い。相談された際に知識がないと逆に自殺に追い込む対応をしてしまう可能性がある
- 3 女性に比べ男性の自殺が多い
- 4 男性の40代、50代においては府より、70代においては国・府に比べ自殺者の割合が大きい
- 5 自損行為は女性の方が多く、年齢別だと主に20代～40代に多い
- 6 多種多様な相談内容がある
- 7 相談者の中で、自殺未遂歴がある人は約2割いる

重点課題の決定

重点課題

課題①

公的な相談機関や医療機関へ相談する人が少ない

課題②

身近な人に相談する割合が高い。
正しい知識がないと、自殺に追い込んでしまいかねない

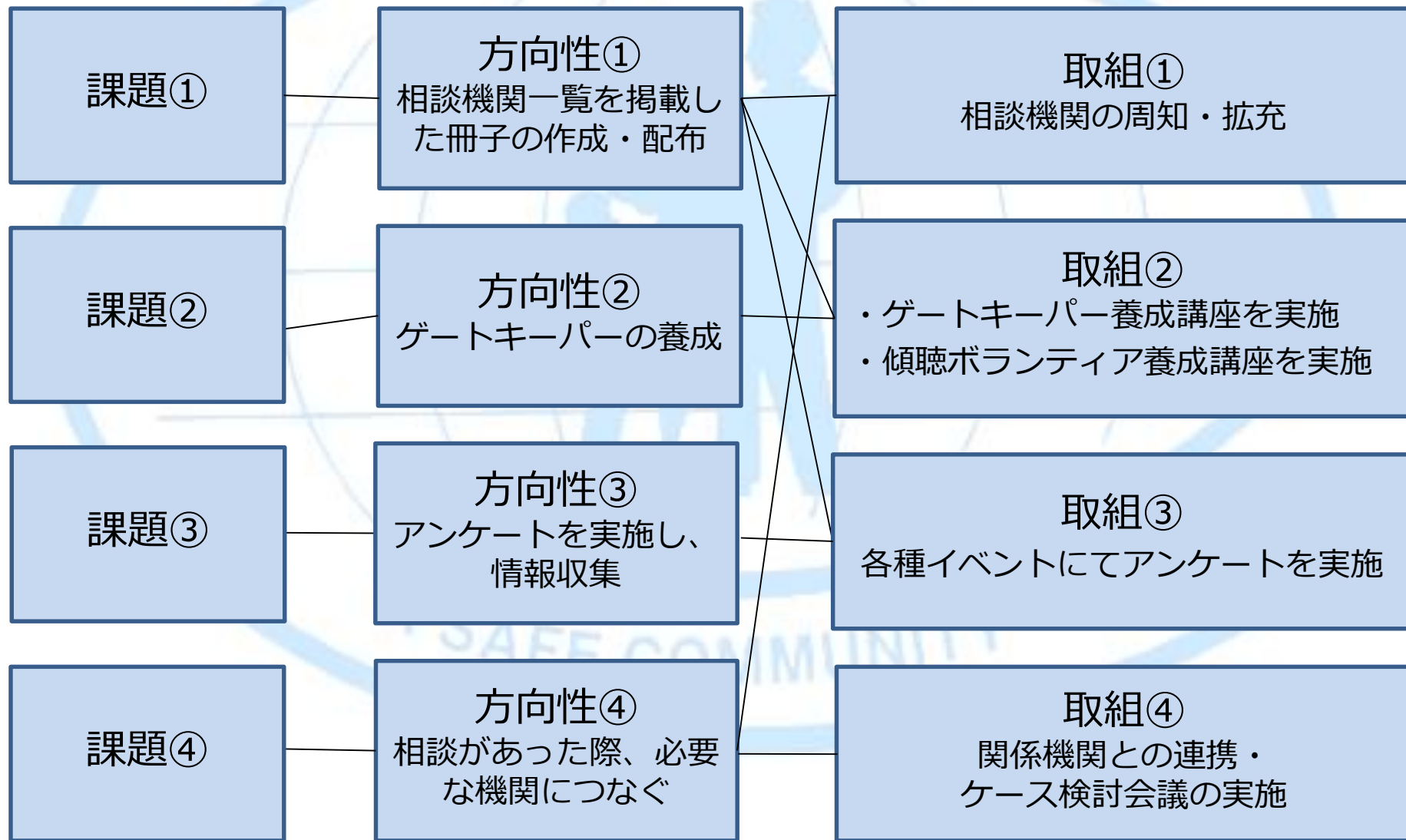
課題③

男性の自殺率が高い原因が把握できていない

課題④

自殺はいくつかの要因が複雑に絡み合う中で
発生の危険が高まる

課題に対する取り組み



レベル別の対策①

課題	対策			
	方向性	国・府レベル	市レベル	地域レベル
課題① 公的な相談機関や医療機関へ相談する人が少ない	教育・啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・自殺対策計画作成と推進 ・市への情報提供 ・補助金の交付 	<ul style="list-style-type: none"> ・啓発冊子の作成・配布 ・母親のための相談会、債務相談の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・G K養成講座 ・傾聴ボランティア養成講座等
	規制	自殺対策基本法(2016年改正)	自殺対策計画(2018年策定中)	
	環境整備	こころの健康センターの設置及び運営		

対策委員会の取組

- ・啓発冊子の作成、設置場所の提案
- ・啓発冊子の配布
- ・相談会の実施

レベル別の対策②

課題	対策			
	方向性	国・府レベル	市レベル	地域レベル
課題② 身近な人に相談する割合が高い。 正しい知識がないと、自殺に追い込んでしまいかねない	教育・啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・自殺対策計画作成と推進 ・市への情報提供 ・補助金の交付 	<ul style="list-style-type: none"> ・GK養成講座 ・傾聴ボランティア養成講座の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・GK養成講座 ・傾聴ボランティア養成講座等
	規制	自殺対策基本法(2016年改正)	自殺対策計画(2018年策定中)	
	環境整備	こころの健康センターの設置及び運営		

対策委員会の取組

- ・ゲートキーパー養成講座の実施
- ・傾聴ボランティア養成講座の実施

レベル別の対策③

課題	対策			
	方向性	国・府レベル	市レベル	地域レベル
課題③ 男性の自殺率 が高い原因が 把握できてい ない	教育・啓発	<ul style="list-style-type: none"> 自殺対策計画 作成と推進 市への 情報提供 	各種イベントに てアンケート調 査を実施	各種イベントに てアンケート
	規制	自殺対策基本法 (2016年改正)	自殺対策計画 (2018年策定中)	
	環境整備	こころの健康セ ンターの設置及 び運営		

対策委員会の取組
 ・アンケートの作成及び
 配布先の検討

レベル別の対策④

課題	対策			
	方向性	国・府レベル	市レベル	地域レベル
課題④ 自殺はいくつかの要因が複雑に絡み合う中で発生の危険が高まる	教育・啓発	<ul style="list-style-type: none"> 自殺対策計画作成と推進 市への情報提供 	関係機関とのケース検討会議の実施	関係機関とのケース検討会議の実施
	規制	自殺対策基本法(2016年改正)	自殺対策計画(2018年策定中)	
	環境整備	こころの健康センターの設置及び運営		

対策委員会の取組

- ・ ケース検討会議の実施
- ・ 情報提供

既存の取組

・府による環境整備

(大阪府こころの健康総合センター 「こころのオアシス」 参照)

大阪府こころの健康総合センターとは・・・
「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」第6条に
掲げられる「精神保健センター」であり、
精神保健福祉に関する中核施設として設置されている。

基本理念に・・・

「府民のこころの健康の保持
及び増進に努めるとともに、
精神障がい者の人権の尊重と
福祉の増進を目指す」ことを
掲げ様々な事業を実施している

こころのオアシス 大阪府こころの健康総合センター
06-6691-2811(代)

つらい? このころの健康相談ダイヤル 0570-064-656

何か悩んでる? よかったら、読んで。

このころの健康づくり

このころの健康相談ダイヤル 0570-064-556

このころの電話 06-6807-8814

© Osaka Prefectural Mental Health Center, 1997-2016. All Rights Reserved.

既存の取組

● 自殺予防に関わる事業

自殺対策推進センター

自殺対策に関する情報の
収集・分析・提供

相談支援

自殺対策支援計画支援

連絡調整

保健所・市町村及び
民間団体への支援

人材育成事業

保健所・市町村等における自殺未遂者及び
自死遺族等支援への助言

相談機関の周知・拡充①ー1

課題		公的な相談機関や医療機関へ 相談する人が少ない
目標		①相談機関を周知し自殺を予防する ②相談機関を拡充・充実させ、様々な悩みに対応する
内容等	実施内容	①相談機関や、啓発冊子の作成・配布 ②相談機関の拡充
	財源	国、府、市
	対象	市民、団体、企業など
	活動	①啓発冊子を作成し、講座やイベント、関係団体の窓口に設置 ②相談窓口の拡充
	人材	市、対策委員会、企業、各種団体

相談機関の周知・拡充①-2

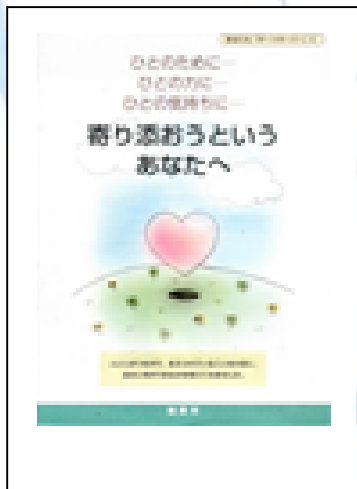
●周知

啓発冊子等の作成・配布

ゲートキーパー養成講座、
講演会等で、必要性を伝えながら
冊子を配布。



2014年作成 ピンバッジ
G K養成講座受講者に配布



2012年作成



2013年作成



2015年作成
阪南大学に配布



相談機関の周知・拡充①-3

●周知


NEW

表

裏

若年層向け啓発ティッシュ の作成・配布




 **ストレス
セルフチェック**

あてはまるところがあるかな？

- からだがだるい
- よくかぜをひく
- イライラする
- よくねむれない
- 落ち込んだ気分になる
- 食欲（しょくよく）がない
- 楽しいことがない
- 友だちや家族とケンカした
- 病気やケガをした
- なやみがある

裏面に相談機関がのってるからみてね！▶

松原市セルフコミュニティ自殺予防対策委員会 

話してみない？
あなたのき・も・ち 

大阪府こころの健康総合センター
☎ 06-6607-8814 平日9時30分～17時

松原市役所
☎ 072-334-1550 平日9時～17時30分
(人権交流室、地域保健課、障害福祉課、産業振興課)

大阪府藤井寺保健所
☎ 072-955-4181 平日9時～17時30分

24時間子供SOSダイヤル
☎ 0120-0-78310

安心して相談できる場所です。秘密は守られます。

2017年
1,000個作成

- ・ 市民まつり 500個
- ・ セミナー 150個
- ・ 市の演劇公演 350個



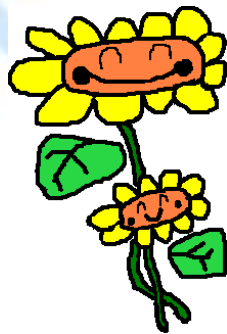
相談機関の周知・拡充①-4

● 拡充

母親を対象にしたピアサロン
(継続 2012年度～)

母親による母親の
ための相談事業

家庭内でゲートキーパーの
役割を担っている母親を
サポートするための相談会



ピアカウンセラーが対応

NPO法人
やんちゃまファミリー
withのスタッフにより、
月4回開催

実施場所

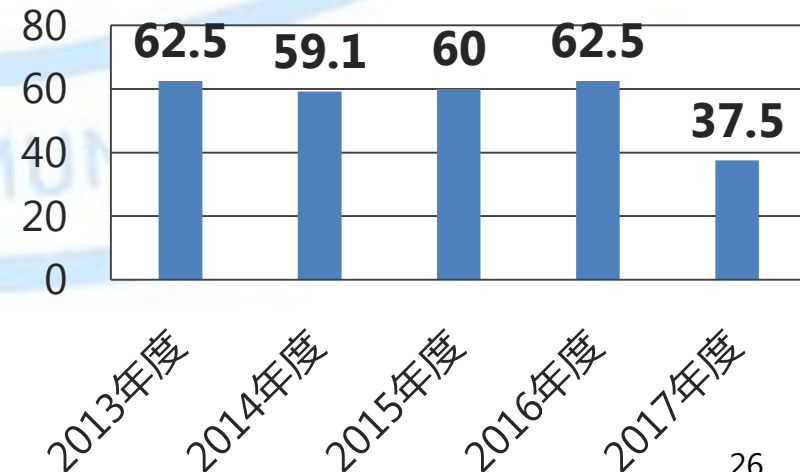
- ・ゆめニティプラザ
- ・はーとビュー

多重債務相談会
(継続 2013年度～)

誰に相談して良いか、悩
んでいる人向けに、解決
への道筋を作るために…
弁護士による
「借金のお悩み相談会」
2017年度 平日夜間
隔月に年6回開催



稼働率
(%)



相談機関の周知・拡充①ー5

●実績と計画

	実績						計画
	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
啓発冊子の配布数	2,000部	2,800部	1,600部	910部	770部	4,194部	2,000部
対策委員会の関わり	<ul style="list-style-type: none"> 啓発冊子の作成及び設置場所の提案 啓発冊子の配布協力 				<ul style="list-style-type: none"> 新たな配布先 医師会所属の病院に配布 スライド25のとおり 		

相談機関の周知・拡充①ー6

・取り組みの評価指標

課題		公的な相談機関や医療機関へ相談する人が少ない	
目標		啓発冊子をより多く配布し、相談につながる件数を増やし、自殺者数・率を減らす	
指標	意識・知識	啓発冊子の配布数の増加	(測定方法) 啓発冊子の配布数を確認
	態度・行動	①相談経路別件数の増加 ②相談機関の周知度を向上	(測定方法) ①相談経路の確認 ②アンケート調査
	状況	①自殺者数・死亡率の減少 ②自損行為者数・率の減少	(測定方法) ①自殺統計 ②救急搬送データ

相談機関の周知・拡充①ー7

・取り組みの指標に基づく測定結果

◆意識・知識

	2012	2013	2014	2015	2016	2017
啓発冊子の配布数の増加	2,000部	2,800部	1,600部	910部	770部	4,194部

◆態度・行動

	2012	2013	2014	2015	2016	2017
①相談経路別件数の増加 ②相談機関の周知度を向上		①8件	①109件	①59件 ②5%	①53件 ②7%	①52件 ②1%

◆状況

	2012	2013	2014	2015	2016	2017
①自殺者数・死亡率の減少 ②自損行為者数・率の減少	①18人 (14.6人)	①24人 (19.4人)	①20人 (16.2人)	①23人 (18.7人)	①14人 (11.5人)	①12人 (9.9人)
	②44人 (35.4人)	②66人 (53.4人)	②47人 (38.2人)	②40人 (32.8人)	②38人 (31.3人)	②28人 (23.2人)

注：自殺死亡率と自損行為率については10万人あたりの数字となっています

こころの健康の促進及びゲートキーパーの養成② - 1

課題		身近な人に相談する割合が高い。 正しい知識がないと、 自殺に追い込んでしまいかねない。
目標		適切な対応ができ、必要な支援（相談機関）につなぐことができるゲートキーパーを増やす。
内容等	実施内容	ゲートキーパー養成講座を実施し、正しい知識の習得を目指す。
	財源	国、府、市
	対象	市民、団体、企業など
	活動	ゲートキーパー養成講座の受講及び促進
	人材	市、対策委員会、臨床心理士など

こころの健康の促進及びゲートキーパーの養成②-2

ゲートキーパー養成講座 累計受講者数



こころの健康の促進及びゲートキーパーの養成②-3

- 自殺のハイリスク者（男性）と接することが多い団体に向けてゲートキーパー養成講座を実施

理容師協会

NEW

薬剤師会



こころの健康の促進及びゲートキーパーの養成②-4

こころの健康やSOSの出し方をテーマにした講座資料を作成

中学生向け

NEW

大人向け

自分のことを大切に
—こころの声を聞いてみよう—

こころの健康講座

市政出前講座
セーフコミュニティ自殺予防対策委員会 事務局
地域保健課・障害福祉課・産業振興課・人権交流室

中学2年生や市民対象に実施予定

こころの健康の促進及びゲートキーパーの養成② - 5

・実績と計画

	実績						計画
	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
役割理解度			88.2%	92.5%	95.2%	85.8%	100%
G K養成講座受講者数	217人	265人	480人	445人	474人	146人	400人
対策委員会の関わり	<ul style="list-style-type: none"> 各委員の所属団体での受講 新たな受講団体の検討・推進 			<ul style="list-style-type: none"> 関係団体への受講や出前講座での受講の推進 			

こころの健康の促進及びゲートキーパーの養成②-6

・ 取り組みの評価指標

課題		身近な人に相談する割合が高い。正しい知識がないと、自殺に追い込んでしまいかねない。	
目標		正しい知識を持ったゲートキーパーを養成することにより、地域で相談を聞くことができる人を増やす。	
指標	意識・知識	役割理解度の向上	(測定方法) アンケート調査
	態度・行動	①相談経路別件数の増加 ②相談機関の周知度を向上	(測定方法) ①相談経路の確認 ②アンケート調査
	状況	①自殺者数・死亡率の減少 ②自損行為者数・率の減少	(測定方法) ①自殺統計 ②救急搬送データ

こころの健康の促進及びゲートキーパーの養成② - 7

・取り組みの指標に基づく測定結果

◆意識・知識

	2013	2014	2015	2016	2017
役割理解度の向上		88.2% (n=17)	92.5% (n=107)	95.2% (n=83)	85.8% (n=127)

◆態度・行動

	2013	2014	2015	2016	2017
①相談経路別件数の増加	①8件	①109件	①59件	①53件	①52件
②相談機関の周知度を向上	(8月以降)	②13.5%	②43.2%	②37.8%	②38.6%

◆状況

	2012	2013	2014	2015	2016	2017
①自殺者数・ 死亡率の減少	①18人 (14.6人)	①24人 (19.4人)	①20人 (16.2人)	①23人 (18.7人)	①14人 (11.5人)	①12人 (9.9人)
②自損行為者 数・率の減少	②44人 (35.4人)	②66人 (53.4人)	②47人 (38.2人)	②40人 (32.8人)	②38人 (31.3人)	②28人 (23.2人)

注：自殺死亡率と自損行為率については10万人あたりの数字となっています

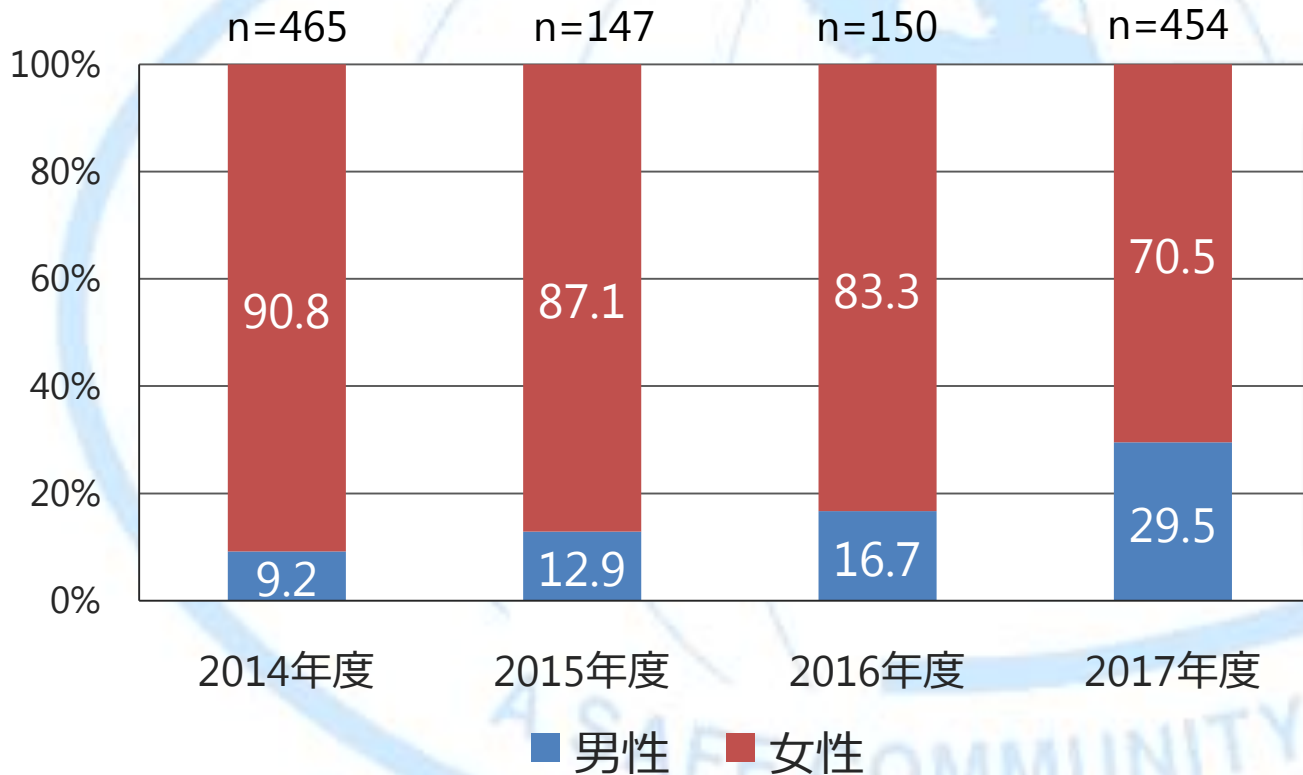
男性の意識把握③ - 1

課題		男性の自殺率が高い原因が把握できていない
目標		男性に向けたよりの確な予防を図るための情報を収集する
内容等	実施内容	アンケート調査を実施
	財源	市
	対象	市民、団体など
	活動	イベント等でアンケート調査を実施
	人材	市、対策委員会

男性の意識把握③ - 2

性別ごとの意識把握の割合

出典：イベント時のアンケート

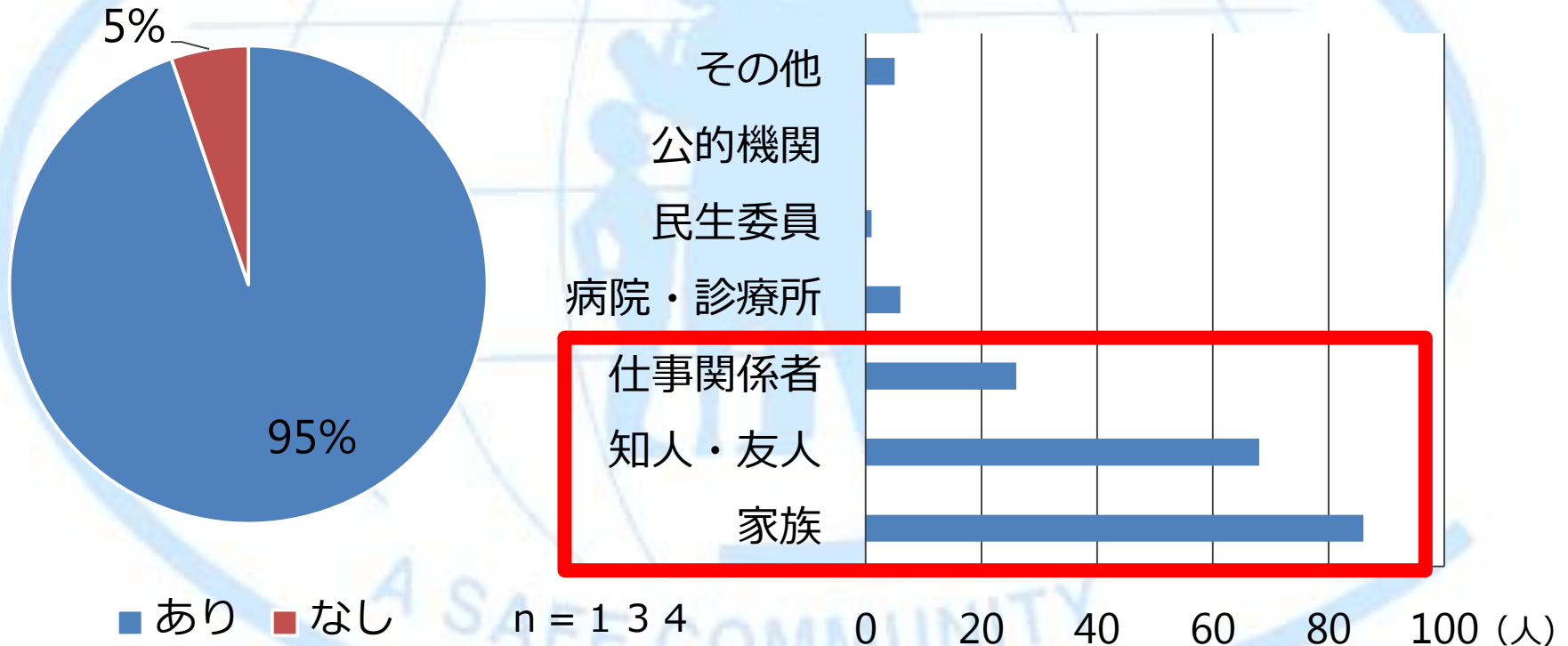


男性からのアンケート回収率は前年度比 **+13%**

2017年度より新たに商工会議所や、地域包括支援センター
薬剤師会に所属する薬局で実施することで、
より多くの男性の意識把握をすることができた

男性の意識把握③ - 3

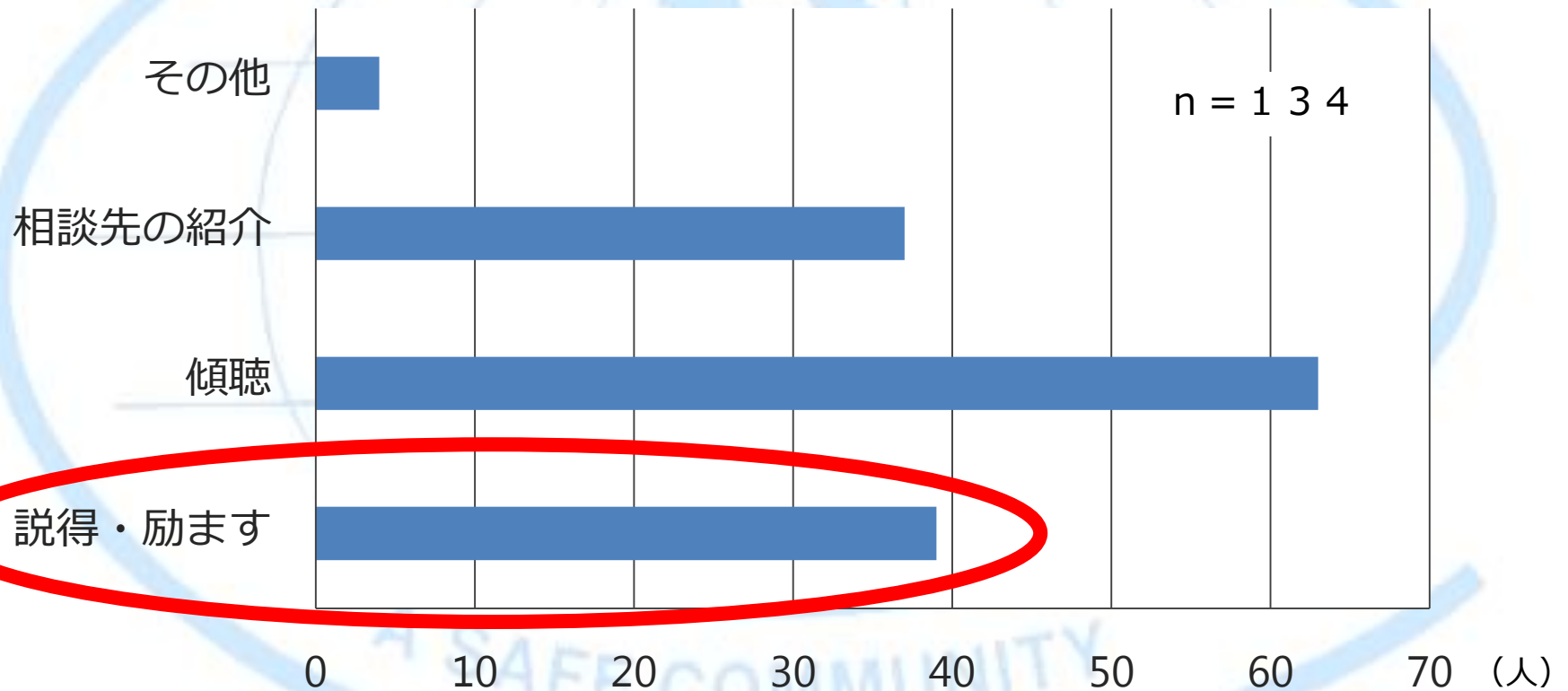
相談できる人や場所の有無 「あり」と答えた人の相談先（複数回答）
出典：イベント時のアンケート（2017年度）



- ・ 「相談できる人や場所がある」と答えた方は9割以上
- ・ 知人・友人、家族、仕事関係者に相談する割合が大きい

男性の意識把握③ - 4

身近な人から「死にたい」と相談された時の対応（複数回答）
出典：イベント時のアンケート調査（2017年度）



- ・ 説得、励ますといった間違った対応が約 3 割ある

男性の意識把握③－5

・実績と計画

	実績						計画
	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
相談先の認知度の向上				84% (n=19)	92% (n=25)	95% (n=134)	100%
対策委員会の関わり				・アンケートの作成及び配布先の検討			

男性の意識把握③－6

・ 取り組みの評価指標

課題		男性の自殺率が高い原因が把握できていない	
目標		男性に向けた的確な予防対策を図るための情報を収集する	
指標	意識・知識	相談先の認知度・周知度の向上	(測定方法) アンケート調査
	態度・行動		
	状況	男性の自殺者数の減少	(測定方法) 自殺統計

男性の意識把握③－7

・ 取り組みの指標に基づく測定結果

◆意識・知識

◆態度・行動

	2012	2013	2014	2015	2016	2017
相談先の 認知度・ 周知度の 向上				84% (n=19)	92% (n=25)	95% (n=134)

◆状況

	2012	2013	2014	2015	2016	2017
男性の自 殺者数・ 率の減少	13人 (21.8人)	18人 (30.1人)	13人 (21.8人)	16人 (27.0人)	10人 (17.0人)	5人 (8.6人)

自殺予防支援④－1

課題		いくつかの要因が複雑に絡み合うことで自殺に至る危険性が高まる
目標		<ul style="list-style-type: none"> ・自殺につながる危険要因に対して適切な支援を行う ・相談者を孤立させない
内容等	実施内容	関係機関にアンケート調査を実施 関係機関と連携しケース検討会議を実施
	財源	市
	対象	市、団体
	活動	<ul style="list-style-type: none"> ・半年に1回アンケート調査を実施 ・ケース検討会議を実施
	人材	市、対策委員会、各種団体

自殺予防支援④－3

ケース検討会議の実施

相談を受付けた際に、庁内において「つなぎ」が必要と思われる案件であった場合に、当該相談者の今後の対応について、担当課および自殺対策委員会事務局4課で情報を共有するケース検討会議を実施。



事例1：Aさんの相談。

身体・精神疾患を持ち自殺企図のある娘と本人の身体疾患などの悩みがある。

娘に対し、見守り・健康チェック・話し相手を目的とした訪問看護を導入することになった。

事例2：Bさんの相談。

息子のことで相談。うつ・精神疾患・自殺未遂や母への暴力がある。

本人に対し、精神福祉手帳の取得、障害者就活支援を紹介した。

自殺予防支援④ - 4

・相談件数の実績

	実績					
	2012	2013	2014	2015	2016	2017
相談件数		34件	98件	59件	53件	52件
対策委員会の関わり			<ul style="list-style-type: none">・ ケース検討会議の実施・ 相談事例の提供			

自殺予防支援④ - 5

・ 取り組みの評価指標

課題		いくつかの要因が複雑に絡み合うことで自殺に至る危険性が高まる	
目標		<ul style="list-style-type: none"> ・ 自殺につながる危険要因に対して適切な支援を行う ・ 相談者を孤立させない。 	
指標	意識・知識	相談内容の把握と分析	(測定方法) 保健所、市役所、 相談支援機関の統計
	態度・行動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 危険要因を軽減するために関係機関につなげる ・ 丁寧にくりかえし面談を行う 	(測定方法) 保健所、市役所、 相談支援機関の統計
	状況	自損行為者数・率の減少	(測定方法) 救急搬送データ

自殺予防支援④－6

・取り組みの指標に基づく測定結果

◆意識・知識

	2012	2013	2014	2015	2016	2017
相談件数の増加		34件	98件	59件	53件	52件

◆態度・行動

	2012	2013	2014	2015	2016	2017
個別相談の継続		44件	151件	131件	119件	100件

◆状況

	2012	2013	2014	2015	2016	2017
自損行為者数・率の減少	44人 (35.4人)	66人 (53.4人)	47人 (38.2人)	40人 (32.8人)	38人 (31.3人)	28人 (23.2人)

注：自損行為率については10万人あたりの数字となっています

現在の課題

課題①

啓発冊子の設置をハイリスク者が多くいる企業や高齢者、
悩みを抱える人に対して行う必要がある

課題②

より多くの男性に対する意識把握のアンケート実施と、
それに対する取り組みを行う必要がある

課題③

昨今問題となっている、若年層に対する
自殺予防の取組を行う必要がある

今後の予定

予定①


対策委員会の委員と協力し、啓発冊子などを企業や団体、病院などに設置していただけるよう働きかけをしていく

予定②

より多くの男性にアンケート調査を行うための配布先を検討し、また、啓発活動を実施し正しい知識の普及に努める

予定③

- ・若年層向けに作成した研修資料を基に、中学生に向けて啓発活動を実施
- ・若年層の参加が見込まれる市民まつりなどのイベント時に啓発物品を作成し配布する



ご清聴ありがとうございました

大阪初！セーフコミュニティ国際認証都市まつばら
「みんなでつくる 安心・安全なまちづくり」